

## 令和5年度宮沢賢治記念館運営審議会会議録

### 1 開催日時

令和5年7月4日（火） 午前10時00分～午前11時10分

### 2 開催場所

花巻市矢沢第1地割1-36 宮沢賢治記念館多目的ルーム

### 3 出席者

#### (1) 委員4名

瀬川卓哉委員（宮沢賢治・花巻市民の会会員）、堀合範子委員（花巻ユネスコ協会事務局長）中島健次委員（矢沢地域振興会会長）、多田章委員（矢沢地域振興会理事）

#### (2) 事務局（宮沢賢治記念館）4名

市川生涯学習部長、清水館長、柳原副館長、宮澤上席主査

### 4 議題

#### (1) 令和4年度事業報告について

#### (2) 令和5年度事業計画について

### 5 会議録

**清水館長**：それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

本日は、委員7名中4名の出席でありますので、宮沢賢治記念館管理運営規則第9条第2項の規定により、委員の半数以上が出席しておりますことから、会議が成立することをご報告いたします。

ただ今から宮沢賢治記念館運営審議会を開会いたします。開会にあたりまして、市川生涯学習部長よりごあいさつを申し上げます。

**市川生涯学習部長**：皆様、おはようございます。今日はお忙しいところ、暑いところご出席を賜りましてありがとうございます。大分、コロナも落ち着いたと言われてきておりまして、記念館等におきましても、入館者が増えてきているというところでもあります。ただ、国の方でも第9波に入ったと尾身先生がおっしゃったりされていまして、なかなか見えないんですけども、市内でも感染者がないわけではないという状況であります。そういう中でも日常に近づけていかなければいけないということで、いろいろ工夫しながら、気を付けながらいろんな事業を平常どおり運営しつつあるというような状況になっております。昨年度は、宮沢賢治記念館開館40周年ということでありまして、「雨ニモマケズ手帳」の公開を行いました。また、賢治さんの妹トシさんの没後百年という年でもありました。今回少しお話をいたしますが、トシさんが書いた「自省録」というようなものがありまして、これについて望月先生からきちんと保管した方がいいんじゃないかというような提言もありまして、賢治記念館において、所有者と交渉をして購入をするというようなかたちになりまして、賢治記念館で保管をしているという状況になっております。また、今年度は賢治没後90年ということで、映画「銀河鉄道の父」というものも5月5日から公開されております。主演の役所広司さんも国際的な映画祭でも最優秀賞を受賞したなどということもありまして、なかなかいい映画で結構評判もいいなというふう感じておりますし、主演の役所さんの演技などもとてもよかったんだろうなと感

じております。そういうことで、話題には尽きないというところでありまして、やはり宮沢賢治は花巻市を代表して全国、全世界に誇れるものだと考えておりまして、これからも宮沢賢治記念館をはじめいろんな観光にも市として力を入れていきたいと考えているところでございます。また、7月6日に花巻市感謝状贈呈式というものを開催いたしますが、中島会長におかれましては、13年にわたる宮沢賢治記念館運営審議会の委員としてのご尽力ということで、表彰を受けられます。中島会長には、この場をお借りいたしまして、御礼を申し上げますとともに、祝意を表したいと思っております。宮沢賢治記念館は、やはり全国でも誇れる記念館でありますので、皆様方から運営に際してのご意見を賜りたいというふうに思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。終わります。

**清水館長**：それでは、次第3の議事に入らせていただきます。中島会長には、ごあいさつをいただきまして、その後の議事の進行をお願いいたします。よろしくお願

**中島会長**：本日は皆さん、お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。いつも感じるんですが、記念館に入ると都会の喧騒やら暑苦しさが感じられなくて、別世界というような雰囲気が賢治記念館にはあるんじゃないかなというふうに思っております。先ほど、部長さんからお話がありましたように、コロナという関係では国内の人の動き、市内を含めてですけれども、それから海外の動き、非常に活発になってきていると思っております。その反動もあるというお話もありましたが、やっと本来の記念館行事ということになってきたのかなというふうに思っております。没後90年ということで、従来にも増して関連のイベント、私に関わるものだけでも朗読会もありましたし、俳句大会とか、映画もそうですし、ますます盛んな感じになってくるというふうに思っております。そのメインの施設である賢治記念館の運営ということで、館長さん以下担当の皆さんには、よろしくお願いを申し上げたいというふうに思っております。先ほど部長さんから感謝状の話がありましたが、長きをもって貴しとなすと、長くいればいいというものではないということで、そろそろ潮時だよというサインというふうにも受け取ってございますので、任期のうちは頑張りたいと思っております。委員の皆さんには、よろしくご協力、ご審議をいただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、早速議事に入りたいと思っております。(1) 令和4年度事業報告について、説明をお願いいたします。

**柳原副館長**：皆さん、お疲れさまでございます。宮沢賢治記念館副館長の柳原と申します。4月から参りました。私の方から令和4年度事業報告ということで説明をさせていただきます。座らせて説明させていただきます。

会議資料1ページをお開きいただきたいと思います。令和4年度事業報告でございます。初めに1入館状況と対応について、(1) 入館者の状況でございます。令和4年度は、コロナ禍の運営であったものの、年間の入館者数は87,469人となりました。前年度と比較いたしまして40,120人、84.7パーセントの大幅な増加となったところでございます。平成30年度から令和4年度までの入館者数の推移等につきましては、下記の表に記載されているとおりでございます。また、コロナ禍になって増加しておりました修学旅行などの教育旅行で来館した小中高生等は8,940人で、前年度と比較すると3,299人、27.0パーセントの減となったところでございます。

(2) 対応の状況でございます。①開館日等の状況についてでございますけれども、令和4年度につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館はなかったところでございます。②繁忙期の対応でございますけれども、ゴールデ

ンウイク、夏休み期間、賢治の命日である9月21日の前後の繁忙期には、シャトルバスを運行いたしました。また、シャトルバスの運行期間と10月の前半の土、日に記念館駐車場等の交通整理のために警備員を配置して来館者の安全誘導を行ったところがございます。内訳につきましては、資料の後ろから3枚目の別紙1に記載してございますので、ご覧いただきたいと思っております。令和4年度のシャトルバス運行実績、駐車場警備の実績を記載してございますので、ご覧いただきたいと思っております。それではまた、1ページに戻っていただきたいと思っております。③解説案内、レファレンスの対応でございます。入館者の要請があった場合につきましては、修学旅行等の団体入館者を中心に観光ボランティアガイド、花巻観光協会でございますけれども、館内の解説や案内等に対応いたしましたし、学習、調査、取材に対しましては学芸員が対応いたしました。資料2ページ目、次のページをお開き願います。続きまして、2主要事業、賢治のまちづくり推進事業についてでございます。(1) 特別展の開催につきましては、資料記載のとおり、①「童話ツェねずみ」、②「心象スケッチ春と修羅」、③「童話カイロ団長」、この三つの特別展を開催したところがございます。期間、会場、内容、実物資料展示期間中の入館者数につきましては、資料記載のとおりでございます。続いて3ページ目、(2)「賢治の世界」セミナー・ワークショップ等の開催につきましては、資料の後ろから2枚目でございますけれども、別紙2に詳しい内訳を載せてございますので、こちらをご参照いただきたいと思っております。①「賢治の世界」セミナー、出前講座でございますけれども、令和4年度中は16校で17回開催してございます。市内小中学校及び花巻農業高校を対象に講座を開催してございます。②「賢治の世界」ワークショップ、これにつきましては実施回数3回でございます。その風景につきましては、真ん中の写真をご覧いただきたいと思っております。賢治ゆかりの六原(金ヶ崎)を訪ねてほか、3回開催してございます。③ギャラリートークの開催、学芸員によりますギャラリートークを令和4年3月18日に開催いたしました。なお、当初10月と11月に予定していたギャラリートークにつきましては、いずれもコロナの感染状況を勘案して開催を中止したところがございます。4ページをお開き願います。4ページの上段の写真は、ギャラリートークの風景でございます。続きまして、3各種行事等の開催でございます。(1) 開館記念行事でございます。9月21日、当館の開館40周年を記念いたしまして胡四王神楽による権現舞の演舞を行ったところがございます。(2) 特別企画、部長のあいさつの中にもございましたが、「雨ニモマケズ手帳」の公開を9月16日から25日までの間、開館40周年記念事業として展示したところがございます。併せて、宮澤和樹氏による講演会を開催いたしました。その風景が4ページ下段の写真でございます。続いて資料の5ページでございます。4 記念館年報、記念館通信等の発行でございます。例年どおり年報、通信を発行してございます。5 環境等の整備についてでございます。(1) 主な施設整備でございます。記載のとおりでございます。(2) 周辺環境の整備でございます。記載のとおりでございます。「企業の森活動」として、例年でございますけれども、日東工業株式会社花巻営業所様によりまして、草刈り作業を2回行っていただいたところがございます。そのほかに記載はないものでございますけれども、花巻農業高校PTAの方々によりますプランター設置もしていただきました。(3) 宮沢賢治記念館所蔵資料直筆稿の修繕でございます。令和4年度は、414枚の直筆稿の修繕をしてございます。このうち「風野又三郎」、「風の又三郎」、「あけがた草稿」修繕は、令和3年11月に県外の個人の方から採納した寄附金500万円の一部を活用いたしました。併せて、ご報告申し上げます。続いて6ページでございます。(4) その他でございます。これも市川部長のあいさ

つの中で触れておりましたけれども、令和4年は賢治の妹宮澤トシの没後百年に当たる年でございます。令和4年11月、トシが大正9年に執筆いたしました「自省録」を市が取得してございます。ご報告申し上げます。以上、私の方から令和4年度事業報告について、ご報告申し上げます。よろしく願いいたします。以上でございます。

**中島会長**：それでは、ただ今の令和4年度事業報告について、皆さんからご質問、ご意見をいただきたいと思います。よろしく願いします。

**瀬川委員**：先ず、入館者数が去年よりも84.7パーセントの大幅な増加となった中で、修学旅行が減って一般のお客さんが増えたということだと思えますけれども、これはやはりその要因とするとコロナがちょっとおさまってきたというのもあるでしょうし、市内の方々、近場の方にしてみると、生原稿のあるなしというのはやはり大きな要因ではないかなというふうにも思われるんですけれども、やはりそういう傾向はあるのでしょうか。

**清水館長**：ご指摘のとおり、一般の方が増えて修学旅行の児童生徒が減ったという状況でございます。修学旅行が減ったというのは、やはりコロナ前に戻りつつあるんだろうなと考えております。コロナ前までは関東圏に行っていた学校がコロナのために東北に変更していたものが、元に戻ったというふうに推測しております。近場の方々、花巻市民もおそらくコロナが大分おさまってきたので、賢治記念館を訪れるということではないかなと思います。今年に限って言えば、映画の効果もあって、映画を見たよとおっしゃって入館されるお客様も多いと聞いております。

**瀬川委員**：館内の案内といいますか、レファレンスの対応ということで、これは観光協会が窓口になっているということですが、例えば事前に予約された方がほとんどなのか、あるいは例えば個人で来たお客さんがそういう対応をしているということを知ったうえで、仮に当日案内をお願いしますと言ったときに、そういうことも対応はできるのかどうか、そのへんちょっとお聞きしたいなと思います。

**清水館長**：基本的には花巻観光協会さんに事前に申し込んでいただいて、花巻観光協会さんで当館の方にガイドさんを派遣するという制度でございまして、当日希望されてもおそらく花巻観光協会さんでは対応は難しいだろうなと思います。例えば、来館者からこういうことが知りたいとか聞きたいというときには、学芸員が対応しております。学芸員が付いて案内するということはちょっとできないんですけれども、質問等にはお答えしております。

**瀬川委員**：それに関してなんですけれども、実は花巻市民の会の方からの意見として、例えば前の会長である阿部彌之さんとかだったら、割と気軽に中に入っていろいろ聞いたりできるけれども、ほかの人たちは何となくちょっと聞きづらいなみたいな、対応してくれるのかなという、ちょっと尻込みしてしまうような感じもあるということでしたので、花巻市民の会のメンバーでさえそうだとすることは、一般の来館者がやはりそういうことを聞きたいなと思ったときに、それに対応できますというような案内といいますか、そういう表示みたいなものがあればいいんじゃないかなという意見を聞いてきました。あとは、これちょっとお金がかかる話なんですけれども、よく美術館なんかであるじゃないですか、イヤホンの案内だったり、ああいうのもそのうちには考えてもらった方がいいんじゃないかなという意見をいただいていたので、ご検討をお願いできればなと思います。

**清水館長**：最初の方、来館者が気軽に声をかけられるような雰囲気ではないというご指摘なんですけど、学芸員もそうですし、我々事務方もそうなんですけど、普段は館内にはおらず、館内にいるのは宮沢賢治記念会の職員の方々だけで、受付だったり売

店だったり喫茶だったりで働いていらっしゃるけれども、賢治記念会の職員の方にご質問のある方は先ず声をかけるんです。記念会の職員はベテランの方が多くて、大体のご質問には答えられるような知識もお持ちです。それで記念会の職員の方が回答できないときは、事務室の方に学芸員を呼びに来られて、学芸員が出て行って対応するという流れになっています。ご質問がある方はどうぞこちらへというような掲示物は館内にはございませんので、そういったものが必要ではないかという今のご指摘については、検討させていただきたいと思います。それから、音声ガイドのお話しですけれども、もちろん予算がかかりますので、これについても日本語だけではなく複数の外国語に対応できるようなものも含めて、整備が可能かどうか今後、検討をしたいと思います。

**中島会長**：どのくらい予算がかかるかわかりませんが、結構美術館ではありますよね、そういう音声ガイドはね。

**清水館長**：それほど驚くほどの金額ではないと思っております。一つ付け加えさせていただきますと、展示室内に数台のパソコンがあるんですが、個別の情報が知りたい方がそのパソコンの前に座ってヘッドフォンを使用して解説を聞いたり、作品の朗読を聞いたりするものなんですけれども、コロナになってヘッドフォンを使うことができなくなりましたので、昨年まで使用を中止していたのですが、指向性の高いスピーカーを天井からパソコンの真上に取り付けまして、スピーカーの真下にだけ音声が聞こえるような機材を整備しました。スピーカーの真下から離れると音は聞こえないんですが、スピーカーの下にいるときだけ聞こえるようになっています。そういうような工夫もしましたので、審議会終了後にでも、見ていただきたいと思います。

**瀬川委員**：入場のときのパンフレット、あれはずっと多分、一緒のやつですよ。あれは、この先もあのままいくのか、あるいはまたちょっとリニューアルする予定はあるのかどうか、開館時当初ぐらいからあれじゃなかったかなっていう感じがしているんですが、そのへんちょっとお聞きしたいなと思います。

**清水館長**：平成 27 年度に館内展示のリニューアルをしたときに合わせて、リーフレットの中身も変わっております。施設の様子も変わったので、変わってはいます。ただ、将来もずっとあ今のままかという、例えば賢治に関する新しい事実が見つかってリーフレットに記載されていることが誤りだというようなことがあれば、修正と言いますか、マイナーチェンジ的なことはあるかもしれません。全面を大きく見直すというようなことは、今の時点では検討はしていないところでございます。

**瀬川委員**：ワークショップの参加状況、人数は書いてありますけれども、これはやはり近場の方が多いのでしょうか、それとも結構遠くから積極的に参加される方も多いのでしょうか。

**清水館長**：ワークショップは基本、市民対象でございまして、市の広報とホームページに載せて募集するというものでございます。ただ、市内の温泉旅館に泊まられていたお客様がたまたまワークショップのことを知って、明日も花巻にいますので参加できますかというお問い合わせがあって、定員のにも空きがあったので参加していただいたという例外的な事例もございました。

**瀬川委員**：基本は市民だけど、そのへんは割と柔軟に対応もできるということですね。

**清水館長**：そうですね。大体は屋外でやる関係で、解説の方の声の届く範囲などを考慮すると人数的にあまり多くはできないということがあって、20 名程度を定員に募集しておりますので、定員の範囲であれば大丈夫かなと思います。

**中島会長**：そのほかございますでしょうか。

**堀合委員**：まず初めに、「賢治の世界」セミナーの記録集を送っていただきましてありがとうございます。やはりやりましたよということを文字等で報告を受けるよりは写真がいっぱい入って、これはどんな感じの内容だったのかというのが部外者にもわかって、大変いい記録集だなとずっと思っておりますので、これからも学校等にとってもいい記録になると思います。継続していただきたいなと思います。それからもう一点ですが、宮澤トシさんの「自省録」、貴重な資料を譲り受けたということで、賢治理解を深めるうえでも大変ありがたいことだなと思ってあちこちで聞いておりましたが、内容についてはもう既に出版されて公開されているということですが、直筆稿を今後公開するということは考えていらっしゃるのでしょうか。今の時点の考えで結構です。

**清水館長**：「自省録」というのは、トシさんが対外的に発表することを目的に書かれたものではなく、文字どおり自分の心の内の反省を文章にしたためたというような経緯のものでございますので、作家ではない一個人のトシさんの反省文を賢治記念館として公開するかしないかというのは非常に悩ましいところでございまして、仮に現物を公開するということになる場合については、宮澤家なり関係者のご了解をいただいたうえでないとなかなかできないのかなというふうには考えております。現時点で企画展、特別展で公開するということは考えていないところでございます。

**堀合委員**：ぜひ、将来的に実現できればいいかと、30枚全部でなくてもですね、こういう字を書いて、実物はこうなっているんだというのも、賢治ファンにとってはうれしい資料の一つになるんじゃないかなと思っております。

**清水館長**：堀合委員のご意見も含めて、今後検討してまいりたいと思います。

**多田委員**：5ページの直筆稿の修繕というところで、令和4年度は414枚ということでごございまして、もしわかれば1枚当たりどのくらいかかるものなのでしょう。わかる範囲でよろしいんですが。

**宮澤上席主査**：直筆稿の1枚1枚の状況というものが違うので、もちろん作品単位で修復はしているんですけど、やはり単価というものが出しづらいんです。かなり変わってきてまして、1枚について1万円、2万円かかるものもあれば、数千円で済むものもありまして、それは状況によって変わってきます。

**清水館長**：付け加えて申し上げますと、今回500万円の寄附金のうち250万円ほどを使って133枚の修復をしております。500万円の寄附金をいただいたんですけど、修復業者の方で単年度でやれる量ではないので、250万円ずつ2年に分けて4年度と今年度で、今年度分は発注済で今作業をしてもらっていますが、やっております。大体の単価は、計算してもらえれば出ると思います。

**多田委員**：今後はあと何枚ぐらいを修繕するのか、計画とかは。これはちょっと先の話になってしまいますけれども。

**清水館長**：全部で3千500枚ほどの直筆稿を当館で所蔵しておりますので、5年度末で1千500枚ほど修繕が終わる見込みになっていきますので、3分の1ぐらいになります。

**多田委員**：あと3分の2が残っているということですね。

**宮澤上席主査**：当初の計画ですと、もう少し長くかかる予定だったんですが、今、寄附とかもいただいて、かなりスピードもあがっています。なので今、順調にいけば令和16年ですべて終わる予定ではあるんですが、状況等を見ながら進めていかなければならない作業もありますので、慎重に進めていきたいと考えております。

**清水館長**：修繕が終わったものはきれいな状態で見いただくことができるので、それを特別展などで展示する流れで進めていきたいと思っております。

瀬川委員：修繕するとかなりそのままずっと大丈夫だぞ、みたいな感じになるんじゃないか。

宮澤上席主査：これは脱酸処理という酸化しない処理を施して、酸化を防ぐためのフィルムのようなものに挟み込んで、さらに専用の中性紙というもので保管しておりますので、少しずつは劣化が進行するのはしようがないんですけども、かなり遅らせるというような処置も行っております。

瀬川委員：言ってみれば、ラミネートみたいな感じでコーティングするような形になるんですか。

宮澤上席主査：コーティングをするとちょっと出せないの、ただ挟み込んでいるような、エイジレスフィルムというクリアフォルダのようなものに中性紙とアルカリ紙と挟み込んで、酸化を防ぐというような保存方法をしております。

瀬川委員：「賢治の世界」セミナーのことで花巻市民の会の方からちらっと意見をいただいたので、これは教育委員会の方はまったく関わっていないのでしょうか。館独自の事業ということなんですか。

清水館長：そうです。学校にこの事業の実施を希望しますかという照会をして、やりたいと手を挙げた学校に講師を派遣するという流れです。

堀合委員：学校裁量の年間行事計画の中に入れることができるということですね。

清水館長：そうです。なので、学校が取り入れを考える時期を考慮して2月当たりに照会しております。

瀬川委員：やはり北高とか青雲とか南高なんていうのは、進学の関係でちょっと積極的ではないという話を去年伺ったんですけども、やはりその傾向は続いているわけですね。

清水館長：はい。今年も希望はなかったところです。

瀬川委員：一応、声はかけてね。

清水館長：はい。かけました。

堀合委員：学校もやりたいことがいっぱいあって、国際理解講演会をやりたいとかですね、子供たちの進路に向けての講演会もやりたいとか、いっぱいある中からその学校で選択してやってることではあるでしょうけれど。

中島会長：小学校、中学校いろんな方面から作文を募集するとか絵画を募集するとかいっぱいきて、その中から取捨選択すればいいことなんですけれども、こちらからすれば、この学校からは全然出てこないとか、その中でやりくりしていますから、結構大変なんですよ、学校も。

そのほか、ありませんか。後で事業計画の中でも振り返って質問されてもいいですが。では、令和4年度の事業報告については、原案のとおり承認することよろしいでしょうか。

（「異議なし」との声あり）

中島会長：はい、ありがとうございます。では、原案のとおり承認することといたします。

次に、令和5年度事業計画について、ご説明をお願いいたします。

柳原副館長：それでは、(2) 令和5年度事業計画につきまして、ご説明申し上げます。会議資料の7ページからでございます。座らせて説明させていただきます。令和5年度事業計画でございます。1 主要事業、賢治のまちづくり推進事業の(1) 特別展の開催でございます。①「銀河鉄道の夜」前期、②後期、③「童話山男の四月」と

ということで、3回の特別展の開催を予定してございます。現在開催しております①「銀河鉄道の夜」前期でございますが、これは9月10日までの予定でございます。以下、期間、会場、内容につきましては、記載のとおりでございます。(2)「賢治の世界」セミナー、市内の小中高生を対象に出前講座を開催するものでございます。これの実施予定につきましては、別紙3をお願いしたいと思います。この資料の一番最後のページでございます。令和5年度の実施予定の一覧でございます。今年度は16講座を予定してございまして、本日までに4つの講座を開催してございます。お目通しをいただきたいと思っております。資料7ページに戻っていただきます。(3)「賢治の世界」ワークショップでございます。賢治のゆかりの地の探訪等のワークショップを今年度は5回開催予定でございます。7月17日、月曜日には、賢治ゆかりの鳥羽源蔵、陸前高田市でございますけれども、ここを訪ねるといふような講座を開催予定でございまして、7月5日、明日から先着20名の予定で受付を開始する予定でございます。そのほかにつきましては、市の広報、ホームページ等々で決定次第、周知を図ってまいりたいと考えてございます。(4)ギャラリートーク、10月と11月に学芸員によるギャラリートークを開催予定でございます。これにつきましても、日程、内容の詳細につきましては、決定次第、周知を図ってまいりたいと思っております。8ページをお開き願います。2各種行事等でございます。(1)開館記念行事です。開館日の9月21日に合わせて開催を予定してございます。内容については、検討中でございます。これにつきましても、決定次第、周知を図ってまいります。(2)宮沢賢治没後90年事業「賢治のチェロリサイタル」、仮称でございますが、11月25日、土曜日に開催を予定してございます。当館で所蔵する賢治のチェロを使用して市民向けのリサイタルを市の文化会館で開催する予定としてございます。これにつきましても、詳細決定次第、周知を図ってまいります。3記念館年報、記念館通信の発行、これも例年どおりの発行を予定してございます。4環境整備でございます。(1)主な施設整備、(2)周辺施設整備につきましては、今年度はこのような修繕等々を予定してございます。(3)周辺環境の維持管理につきましては、これも例年どおりでございますけれども、市道宮沢賢治記念館線及び南斜花壇周辺の草刈り、植栽管理、賢治ゆかりのバラ花壇の整備を行ってまいります。今年度の計画につきまして説明を申し上げました。以上で説明を終わります。よろしくお願いたします。

**中島会長：**はい。それでは、皆様からこの事業計画について、ご意見、ご質問をお願いいたします。

私からちょっと記念行事についてなんですけど、私らにも何か来てくださいとか、どうぞご自由にとかなのかな。どういふことをやるの、記念行事は。

**清水館長：**まだ未定です。

**中島会長：**わかりました。ついでに、チェロの奏者は誰なの、ちょっと聞きたいんだけれども。

**清水館長：**まだちょっと発表できないんですけども、その世界では有名な方を人選して、交渉という段階でございます。

**中島会長：**賢治生誕百年のときは、ヨー・ヨー・マが演奏したよね。

**清水館長：**今回はヨー・ヨー・マではありませんが、有名なチェリストです。

**中島会長：**はい。それでは、皆さんの方からどうぞ。

**瀬川委員：**このチェロなんですけれども、やはり楽器なので、そういう調整というものが必要になってくると思うんですけど、こういったものは予算化されているんでしょうか。

**清水館長：**はい。毎年予算をつけてもらって、チェロと隣にありますバイオリンを毎



年メンテナンスして、いい状態を保っています。

**堀合委員**：山猫軒の施設整備の費用はこちらで出しているということですが、山猫軒はJAさんとは違いましたか。私の勘違いかな。

**清水館長**：山猫軒の建物は市の所有でございまして、胡四王物産株式会社というところで運営しております。胡四王物産さんから私どもは賃料を頂戴して、店舗の経営は胡四王物産さんがやっているというものでございます。新花巻駅前にも山猫軒がございすけれども、あそこも胡四王物産さんがやっていますが、あそこは市の建物ではありません。

**多田委員**：私も同じ質問をしようと思っていました。すみません、認識不足で。そうだったんですね。

**中島会長**：環境整備のところで、遊歩道階段修繕というのは、下から昇ってくるころのことですか。

**清水館長**：国道 456 号から階段で昇ってくるころ、木製の階段ですけれども、国道から接続するところなんですけど、屋根がかかっているないので腐食してボロボロになっておまして、そこを今年度、修繕するものです。

**中島会長**：そんなに利用している人がいるんですか。あまり見かけないんですけど。

**清水館長**：相当数いらっしゃいます。やはり屋根がない部分なので傷みが激しくて、予算をつけてもらったので、オフシーズンに、11月とか12月の雪が降る前にそこを全面改修するというものでございます。

**瀬川委員**：ちなみにですけれども、熊の心配とかはありませんか。

**清水館長**：今年度、この辺では情報は入っていません。

**多田委員**：熊の情報ということで、今、私もちょっと話そうと思ったんですが、私この山の下に住んでいますけれども、実は6月ころに堤の近くで子熊を見たという情報がありました。昨日ですが、矢沢小学校からメールが来まして、7月3日の夕方6時半ころ、高松 26 地割 41、多分新坂、鞍掛のあたりじゃないかなと、国道 283 号を横切る成獣 1 頭を目撃したということで、警察とか猟友会の方には連絡がいつているみたいで、こちらの記念館に影響がなければいいなと、ちょっと心配したところでした。最近、熊を見たという情報が多いですが、あまり情報は入っていませんか。

**市川生涯学習部長**：例えば、童話村で出たとか、そういう場合は我々で情報共有していますし、近いところであれば連絡がくることもあります。基本的に学校とかには連絡がいくみたいですが、ここ最近はあまりない気がします。たくさん出ているときは、違う地区で出てるような情報は回っていますが、童話村周辺、胡四王山周辺というのは、昨日とか一昨日とかの情報はきていません。

**清水館長**：童話村のあたりは毎年、結構、情報が出るんですけども、今年は童話村の情報もあまり聞かないです。

**宮澤上席主査**：童話村でBGMを時間を指定して少し大きくするような取り組みをここ何年かやっているようなんですけども、そのあたりからちょっと目撃情報が減ったかなというふうに思っています。音を大きくすると寄ってこないというような効果があるのかなと。

**多田委員**：そういう情報があると記念館の周りの山を散策するとか、そういう人はちょっと心配で入れなくなるんじゃないかなと思ったりして。

**瀬川委員**：遊歩道もありますからね。とりあえず下草を刈ってれば、そこからは出てこないという話を聞いたんですが、大迫の方から。そんなことはないですか。

**市川生涯学習部長**：草丈が高いと隠れて見えないですから、やはり草は刈った方がいい

いと思いますね。私はずっと湯口の方ですけれども、我々の辺りだと出ても誰も気にしないと言うと変ですが、住宅地とか学校とか幼稚園が近いところになると、そういうところに出るとやはり警察の人が来てということはありませんし、草刈とかも十分注意してやったりはしています。

**中島会長**：賢治記念館入口に熊出没注意と書くのも何か野暮ったいような感じがするけれども。

**清水館長**：去年は情報があって、やりました。熊出没注意の張り紙を張りました。今年はないですね。

**瀬川委員**：大迫辺りでも里に近づいてきているという傾向があるらしいので、どうなのかなということでした。

**中島会長**：情報をきちんと集めて、よろしくお願いします。

そのほかございませんでしょうか。

それでは、令和5年度の事業計画について、承認することによってよろしいでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

**中島会長**：ありがとうございます。では、本日の審議はこれで終わりたいと思います。事務局にお返しします。

**清水館長**：はい。中島会長、ありがとうございました。

それでは、次第の4その他でございますが、事務局では何もございません。委員の皆様から何かございましたら、発言をお願いいたします。

**瀬川委員**：ちょっと花巻市民の会の方から預かってきた意見なんですけど、イーハトーブ館との連携というものをやはりもうちょっと積極的にやった方がいいんじゃないのかなと、もうちょっとつながるイベントを企画したりとか、あとは南斜花壇をもうちょっと有効利用するような、両方を結ぶような南斜花壇といいますか、そしてあとは関連した、やはりイーハトーブ館でこんなのをやっているからこちらもなんかそれに関連したものをやるとか、逆にこっちで関連したものをやるとかによって、両方の行き来というものをこのエリア全体でもっと利用者というか来館者にもやってもらえるようなことを考えていった方がいいんじゃないかという意見をいただきました。これも予算はかかることなんでしょうけれども、高齢者なんかは南斜花壇を昇ったり下がったりするのはどうなんだといった場合、やはり大変だと思うんですよ。だからこれも将来的には、例えばロープウェイみたいなものとかリフト的なものが、エレベーターというのはいちちょっとあれなんですけれども、そういったものがあると、より連携したことができるんじゃないかというような意見を頂戴してきました。あとは南斜花壇、こうやっているいろいろとやはり折角花壇なんかも整備されているんですけども、やはりそこで滞在してとか、そこで時間を過ごすという方があまりいないような感じが、なかにはいらっしやるんでしょうけれども、そういう感じもしますんで、やはりちょっとそのへんの南斜花壇の有効利用というか、時間をかけてもゆっくりゆっくり降りていけるような、ゆっくり昇ってこれるような、何かそういったものを将来的には考えながら、両館の連携というものが図られればなおいいんじゃないかという意見を頂戴してきました。それに対して何か館の方のご意見とかあればお願いします。

**清水館長**：イーハトーブ館との連携というご指摘でございました。できるものできないもの、それぞれ得意分野がありますので、互いに補完しながら連携できればいいのかなというふうには思いますので、そこらへんは今後検討させていただきたいと

思います。それからもう一つ、南斜花壇の有効活用ということでございますが、ロープウェイなりリフトなりといったものはなかなか実現は厳しいだろうなというのはお分かりだと思います。滞留時間を増やすというご指摘もございました。ベンチ等は何か所か設置をしているんですけども、日よけがないということもあって、長い時間そこに座って過ごせるかなと言ったら、ちょっと難しいだろうなと思います。かと言って、南斜花壇という立地の特性上、勾配がきつところですので、新たに屋根のあるような休憩施設を造るとするのは難しいと思います。ただ、皆さんに見ていただくために毎年、チューリップとかいろいろ花を植えて、見て楽しんでいただけるような努力はしておりますが、そのほかに新たな構造物というのはちょっと難しいと思います。ソフト面で何かいいアイデアあれば教えていただきたいと思ひますし、こちらでも知恵を出していきたいと思ひます。以上でございます。

**瀬川委員：**そのへんのことで生涯学習部では、何かアイデア的なものはあったりしないのでしょうか。

**市川生涯学習部長：**例えば、イーハトーブ館と賢治記念館が連携していないかというのと、そんなことはなくて、今回の映画の関係で、童話村もそうですけれども、童話村と3館見てもらった人にプレゼントというのを連休中にやりました。早々になくなっちゃったんですけども。何百か作った記念品はすぐなくなりましたね、連休中に。そのほかに3館回った方にプレゼントの応募ができますよというのを6月25日に締め切っております。そういうような事業をやったりしていますし、企画展示なんかも過去に関連付けてやったことはありますね。ただ、やはりイーハトーブ館は学会が仕切って、学会の皆さんの意向で展示をやりますので、必ずしも花巻市に合せてやるというわけではないところもありますので、そこはそういう研究の成果発表をメインにしたりする施設だということなので、全部が全部連携しなければならないかと言うとそんなこともないかなというふうに思ひます。童話村もそうですし、博物館もありますし、すべてが連携とれているかと言うと、やはりそんなわけではなくて、個別の施設での特徴というのもあろうかなと思ひます。南斜花壇は、私はイーハトーブ館とかに結構行きますけれども、案外人がいますね、歩いている人。連休中なんかは、よくいるなくらいの感じで人が歩いていますね。ただ、滞在型というよりは、やはりちょっと散歩をするような人でした。あそこで滞在しなければいけないかと言うとそんなことはなくて、多分、花壇の雰囲気とか新緑とか、秋になるとあそこはまた良くて、秋も人が来たりするんですね。そういうところが良くて、ちょっと散策するというのがメインじゃないかなというふうに思ひますので、そのあたりはわざわざそこで滞留するようなことがなくてもいいような気はします。ただ、賢治記念館に昇っていく、降りていくところの階段なんかは、木が大きくなって暗くなってきているところとか、滑って転びそうになるようなところとかいろいろありますので、そういうのは修繕をしていかなければいけないかなと思ひます。やはり、古くなったり暗くなってくると、人が歩きづらくなっているようなところもありますので、そういうところは十分注意しながらやっていかなければいけないなというふうに思っております。

**瀬川委員：**この連携チケットというのは、どちらが主体になって作られたのでしょうか。

**市川生涯学習部長：**チケットではないんですけども、3館を巡ってスタンプをつくるようなものは、賢治まちづくり課でやっています。

**瀬川委員：**今後も何かそういう予定があるかどうかというのは、賢治まちづくり課の方に聞かなければわからないわけですね。

**市川生涯学習部長**：それだけが特別にすごい事業ではなくて、例えば共通券と言っていますけれども、博物館と新渡戸記念館も含めて、入館料を安くするとかという事業をやっています。そういうようなのとか、いろんな事業をやっています。例えば、旅行者のために後でお金を払うようなシステムとか、いろんな細かい事業を組んでやっています。それはイーハトーブ館と賢治記念館のためというわけではなくて、市の施設の連携とか使いやすいようにお客さんを呼ぶためにというようにいろいろ組んでやってはいます。観光課主体でやる事業もありますし、そういうのはいろいろ皆さん考えながらやっているというような状況です。

**瀬川委員**：必ずしも全く連携がないわけじゃないけど、なんとなくそういう傾向があるんじゃないかと意見だったので、今後それもまたなにかそういった活発になるように継続していければというふうにも思ったりしますので、よろしくお願いします。

**清水館長**：はい。ありがとうございます。瀬川委員、よろしいですか。ほかに皆様からございますでしょうか。

なければ、以上をもちまして、宮沢賢治記念館運営審議会を閉会いたします。委員の皆様、大変ありがとうございました。